

MASセミナー 第12回

「建築家がつくる 小規模建築の魅力」

2013.09.14 (土) PM 1:30 ~
JIA建築家クラブにて



建築家 鳴呼 さん!



日本建築家協会 関東甲信越支部 港地域会

可能性に夢を託して

「建築家になろう」などと、考えてみれば一度もなかったように思う。ただ、学生時代の設計課題で小住宅の魅力に取りつかれて以来この道に入ったことは確かな様だから、未だに小規模なものに興味をそそられるのかも知れない。住宅・小規模建築、は建築家としての僕の原点だと思う。

コルビュジェ・ライト・ミース、は世界(20世紀)の三大巨匠だが、住宅でもその才能を十分に発揮している。心あるクライアントがまず住宅などの小規模建築を建築家に依頼することで、その人はおろか、周辺の人にも限りない可能性を与えることは決して夢ではないと思っている。



今井 均

魅力づくりの原点とは

小規模建築、特にコストが限られ、変形した敷地でのそれは、建築家にとって才能の有無についての試験場のようなもの。あえて、IN(内部)とOUT(外観)、TOTAL(全体)に別けてみよう。

IN:制約が多い分、必要機能を収めるだけでいっばいの場合が多い。空間の「有効活用」への腕の見せ所。

OUT:設計は周辺環境と呼応させたい。うまくすれば、近隣に与える効果が大きく、ひいては街並の美しさを導きだす原点にもなりうる。近隣住民との文化度が試される場でもある。

TOTAL:ヒューマン・スケールへの理解と計測、プロダクト・デザイン的な設備・空間処理も必要となる。快適でオリジナルな空間の魅力を導くには、議論、説明、納得による建主との理解と協力が必要だ。



大倉 富美雄

小規模建築の中の息づかい

空間の魅力は大きさではなくそこにこめられる要素の密度、濃淡によります。小宇宙といわれる茶室を例に出すまでもなく空間の妙は規模の大小ではありません。建築家が知恵をしばって創った小規模建築の中からその息づかいを拾い出してみたいと思います。

スキップフロア、採光・遮光、高低のついた天井、柱や腰壁の効用と空間のメリハリ、坪庭・中庭・光庭、オープンスペース、建築化照明、アルコーブ(居室の凹んだ壁面)やニッチ



鈴木 理巳

「建築家の建築」が町を照らす可能性

人が親密さをもって感じとるエリアを町と呼ぶなら、建築はその町を構成するエッセンスです。

単身で地方都市に暮らしていたころ、家族のいない自分には、街の建物はどれも味気なく、日常にあふれていて、自分はよそ者である、という寂しさを感じました。しかし、その町にたったひとつ、建築家の作った美しい集合住宅がありました。その丁寧にデザインされたひとつの建築が、他者を暖かく迎えてくれる、豊かな場所を提供してくれていました。その建築があるだけで町が明るく照らされる。建築家の仕事があるように思っています。



田口 知子

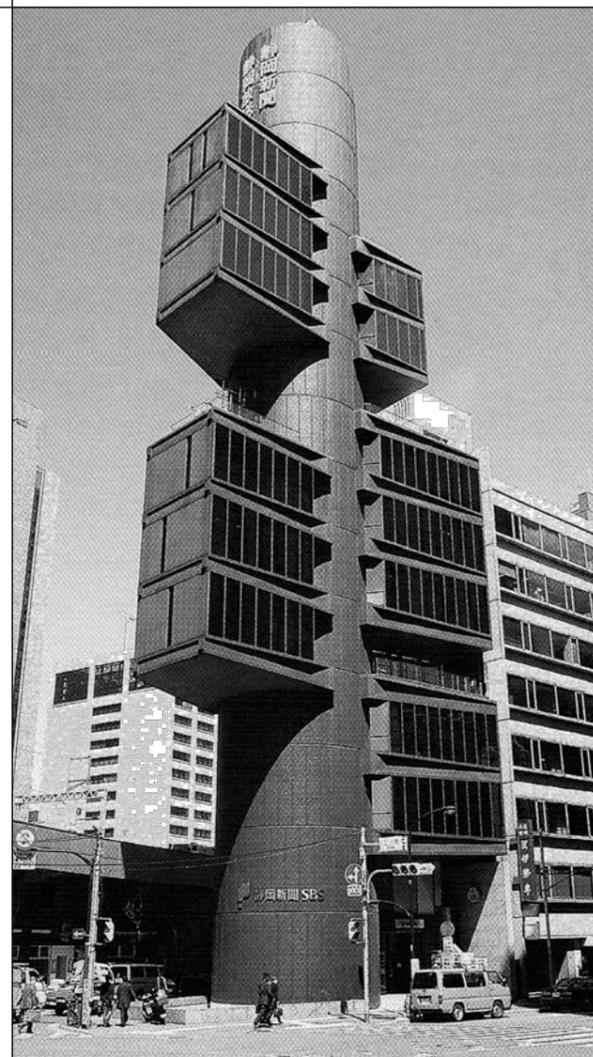


小さい建築だからこそ出来る表現

建築は小さいほど「建築家の思い」が見えてくることが多い。街、人、自然と向かい合う思い。さまざまな思いが建築を素敵にドレスアップする。窓・テラス・花壇・屋根など小さい建築だからこそできる美しい表現がある。小さな窓に灯す光に明日への希望を見出す時がある。小さな家が作る街並み。小さいながらもその表情が街を明るく照らし、街を豊かにしていくことができるのである。それが建築家の仕事である。



宮田 多津夫



起爆剤となる可能性をこめて

ある日住宅の依頼があった。建売地帯でもひとつ綺麗な建物ができれば美しいまち並みの起爆剤となり、きっと全体が綺麗になるよね、と期待してのことである。そしてその分譲宅地の最初の住宅として完成した。

しかし結論を言えば、そうはいかなかった。他の家は建築家には頼まず、売却業者の建売住宅地になっていた。私の依頼主はたいそう残念がっていた。少しでもよいから建築家に相談したら良いのにねと…



村上 晶子

思想が反映された建築は街並を創る

小さいながらも建築が発信する力は大きく、街並・住民など様々なものに影響を与えます。ここに、建築の質が問われるわけですが、建築家の設計するものには「思想」が必ずあります。コンセプトと言い換えても良いと思います。この思想が無い箱だけの建物は、発信するメッセージが無く、街にも良い影響を与えないとは思えません。つまり思想の無い建築は街並への貢献は難しいと思っています。



連 健夫
(むらじ たけお)